

中 学 校

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	2
IV	研究方法	2
1	基礎研究	2
2	研究の進め方	2
3	研究構想図	3
V	研究内容	4
1	音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫	4
2	主体的な学びの実現のための指導の工夫	4
3	音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な 学習場面の設定	4
4	音楽的な見方・考え方を働かせて深い学びを実現するための 具体的な工夫を生かした実践事例	5
VI	研究の成果と課題	23
1	研究の成果	23
2	研究の課題	24

研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせて 深い学びを実現するための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）は、音楽科で育成する資質・能力を、「生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力」と示した。また、そのような資質・能力を育む際には「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点から授業改善を図ることが重要であるとし、「深い学び」の鍵となる「音楽的な見方・考え方」について、「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」と示した。

この「音楽的な見方・考え方」に関連する内容として、現行の中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）では、「生徒が音や音楽と生活や社会とのかかわりを実感できるような指導を工夫すること」が内容の取扱いと指導上の配慮事項として位置付けられている。しかし、「平成 27 年度全日本音楽教育研究会中学校部会 調査研究報告書」（全日本音楽教育研究会中学校部会調査研究部 平成 28 年 3 月）によると、この項目の指導については、4 割程度の学校での指導にとどまるとの結果が示されている。このような調査結果や、研究員各自の指導の状況から、本研究では、資質・能力の育成のためには、特に、見方・考え方を働かせた「深い学び」の実現が重要であると考え、研究主題を「音楽的な見方・考え方を働かせて深い学びを実現するための指導の工夫」と設定した。

「深い学び」の実現について、中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日）では、高等学校芸術科（音楽Ⅰ）を例に、「音楽と主体的に関わることができるようにすることが重要」、「音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける」と示している。そのため、本研究では、生徒の資質・能力を育成する「深い学び」の実現のためには、生徒が、音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的に学ぶ必要があると捉え、具体的な課題について検討した。

その結果、音楽的な見方・考え方を働かせることについては、生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付ける学習を充実させる必要があると考えた。また、主体的に学ぶことについては、生徒が見通しをもって学習に臨むこと、生徒が学んだことを自分自身にとって価値があると感じることに課題があると捉えた。さらに、対話的に学ぶことについては、対話したり協働したりすることが音楽的な学びの充実に必ずしも結び付いていない実態が明らかになった。

本研究では、これらの課題を解決するための視点を、中学校学習指導要領解説音楽編（平成 29 年 6 月）（以下、「解説」と表記。）に示された音楽科改訂の趣旨に照らして「Ⅱ 研究の視点」に示す 3 点に整理するとともに、具体的な手だてを工夫し、検証授業を行った。

Ⅱ 研究の視点

研究主題に迫るため、生徒の資質・能力を育成する視点から授業を構想するとともに、次の三つの視点から効果的な指導法を検討し、検証授業による実践研究を行う。

①音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫

生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けて考える場面を設定するとともに、指導を工夫する。

②主体的な学びの実現のための指導の工夫

生徒が見通しをもって学習に臨むことができるよう指導を工夫する。また、生徒が学んだことを振り返って、自分自身にとって価値があると感じられるよう指導を工夫する。

③音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定

生徒が他者と対話したり協働したりしながら学習する場面を、音楽的な学びを充実させる観点から設定する。

Ⅲ 研究仮説

生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けて考える場面を設定するとともに、生徒が見通しをもち、学んだことの価値を実感できるよう指導を工夫し、生徒が対話的・協働的に学習する場面を音楽的な学びの充実のために設定することにより、音楽的な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現し、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育むことができるであろう。

Ⅳ 研究方法

1 基礎研究

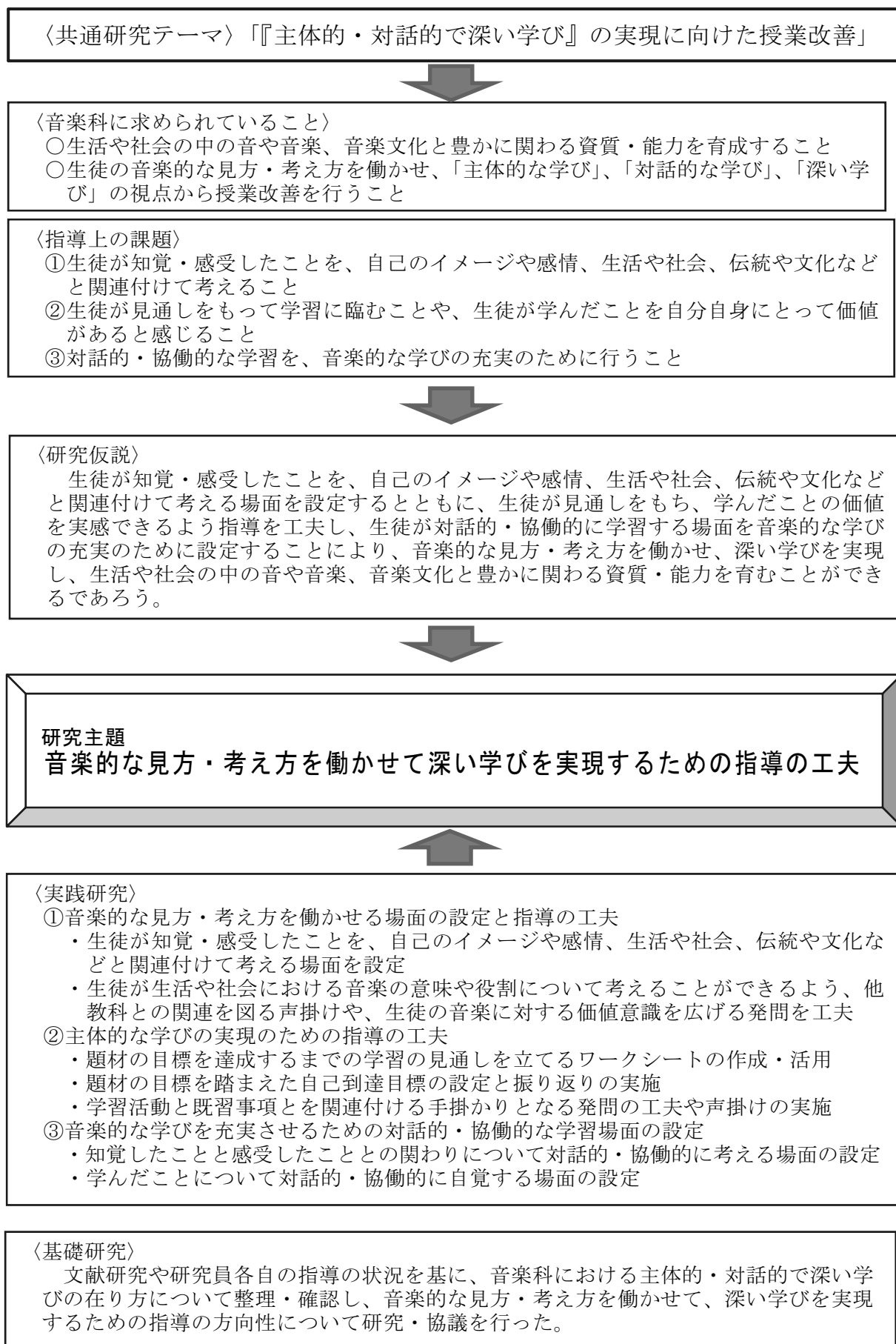
次の文献等を基に、音楽科における主体的・対話的で深い学びの在り方について整理・確認し、音楽的な見方・考え方を働かせて、深い学びを実現するための指導の方向性について研究・協議を行った。

- ・「中学校学習指導要領」（平成 20 年 3 月）
- ・「中学校学習指導要領解説音楽編」（平成 20 年 9 月）
- ・「中学校学習指導要領」（平成 29 年 3 月）
- ・「中学校学習指導要領解説音楽編」（平成 29 年 6 月）
- ・「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日）

2 研究の進め方

文献等及び研究員各自の指導の状況から課題を整理し、それに対する基礎研究を行った。この基礎研究を踏まえ、音楽的な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現するための具体的な授業改善の工夫の在り方について検討し、研究仮説を立てた。その上で、検証授業において、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導であるか検証した。なお、検証にあたっては、期待される「主体的な学びの姿」・「対話的な学びの姿」・「深い学びの姿」をあらかじめ想定し、授業結果と比較すること等により行った。

3 研究構想図



V 研究内容

1 音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫

本研究では、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせることができるよう、生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けて考える場面を設定する。その際、生徒が生活や社会における音楽の意味や役割について考えることができるよう、他教科との関連を図る声掛けや、生徒の音楽に対する価値意識を広げる発問を行うなど、指導を工夫する。

2 主体的な学びの実現のための指導の工夫

本研究では、「解説」に示された、主体的・対話的で深い学びを実現するための6点の授業改善の視点の例から、「単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか」に着目し、生徒が主体的な活動を進めるための学習の見通しのもたせ方について検討した。その結果、生徒が学習を見通し、何をどのように学ぶのか、何を習得すればよいのか、何が身に付いたのかを学習の過程で自ら把握することで、より主体的に学びを深めることができると考えた。そして、そのための指導の工夫を、次の3点に整理した。

(1) 題材の目標を達成するまでの学習の見通しを立てるワークシートの作成・活用

生徒が、学習内容を整理し、何を学んだのか振り返ることができるワークシートを作成・活用する。

(2) 題材の目標を踏まえた自己到達目標の設定と振り返りの実施

生徒が、自分の到達目標や、到達目標を達成するために必要な技能や解決のための方策等を、自ら考える場面を設定する。また、題材のまとめを行う際に、自己到達目標をどのように達成することができたか振り返りを行う。

(3) 学習活動と既習事項とを関連付ける手掛かりとなる発問の工夫や声掛けの実施

題材の導入等で、学習活動と既習事項との関連を考える活動を設定することは、生徒が見通しをもち、イメージを膨らませて音楽と出会うことにつながるものである。なお、ここでの既習事項は音楽科の学習における既習事項にとどまらず、他教科の学習における既習事項も含むものと捉える。

3 音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定

(1) 知覚したことと感受したこととの関わりについて対話的・協働的に考える場面の設定

生徒が他者と対話したり協働したりしながら、知覚と感受との関わりについて考える場面を設定する。それによって、生徒が知覚・感受を根拠に自らの音楽表現の意図を説明したり、知覚・感受したことを共有・共感し合ったりしながら学習を進めることにつながると考えた。

(2) 学んだことについて対話的・協働的に自覚する場面の設定

2(2)で述べたように、本研究では、自己到達目標の達成の観点から生徒に学習を振り返るよう促し、自己の学びや変容を自覚させる。その際、生徒が他者と対話したり協働したりする場面を設定することで、学びの価値を共有し合い、次の学習に向けた学習意欲の喚起につながる。

4 音楽的な見方・考え方を働かせて深い学びを実現するための具体的な工夫を生かした実践事例

(1) 実践事例 1

ア 題材名 自分のイメージを生かしたチャイムをつくろう（第1学年）

イ 題材の目標

- ・リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりに関心を持ち、イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように旋律をつくるか、思いや意図をもって創意工夫する。
- ・イメージに合った簡単な旋律をつくるために必要な、課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付ける。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりについて理解する力 ○【技能】イメージに合った簡単な旋律をつくるために必要な、課題に沿って音を選択したり組み合わせたりする技能	○リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように旋律をつくるか、思いや意図をもって創意工夫する力	○イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度

エ 学習指導要領との関連

中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）	中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）
【A表現】(3) ア 言葉や音階などの特徴を感じ取り、表現を工夫して簡単な旋律をつくること。	【A表現】(3) ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。 イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。 (イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴 ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った

	音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。
〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成	

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりに関心を持ち、イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	①表したいイメージと関わらせながら音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。	①イメージに合った簡単な旋律をつくるために必要な、課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている。

カ 指導観

本題材は、生徒が中学校で初めて体験する創作活動である。そのため、学校生活と関連付けた身近な題材を設定し、生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫した。対話的・協働的な場면을効果的に取り入れて創作活動を行うとともに、知覚・感受したことと自己のイメージや生活とを関連付ける場面を設定し、生徒が「音楽的な見方・考え方」を働かせて深い学びを実現できるようにしたい。

第1学年生徒を対象に行った小学校での学習経験に関するアンケートの結果からは、音楽づくりの学習経験と創作に対する意欲が密接に関連していることが明らかになった。本実践を通して、まずは創作の楽しさを感じさせ、主体的に学習に取り組めるようにしたい。そして、知覚・感受したことと自己のイメージや生活とを関連付けられるよう工夫して授業を行い、深い学びの実現を目指したい。

キ 本題材で期待される生徒の「主体的な学びの姿」・「対話的な学びの姿」・「深い学びの姿」

「主体的な学びの姿」	「対話的な学びの姿」	「深い学びの姿」
○リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりに関心を持ち、イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に見通しをもって取り組むとともに、自己の学びを振り返り、学びの価値を自覚している姿	○教員との対話や生徒同士の対話を通して、表したいイメージと関わらせながら音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて自分の思いや意図を広げたり深めたりして、創作表現を創意工夫している姿	○主体的・協働的に学びながら、知覚・感受したことを基に思いや意図をもって創作表現を創意工夫し、創作した作品を自己のイメージや感情、生活や社会、文化などと関連付ける姿

ク 題材の指導計画（全3時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
1 （本時）	◆表したい音楽のイメージをもち、それに合った旋律をつくる学習に主体的に取り組む。 ○音楽のもたらすイメージについて考える。 ・チャイムに関連した曲や、昨年度の2年生の作品を聴き、感じたことを全体で共有する。 ・曲を聴いて感じたことと、音楽を形づくっている要素との関わりについて全体で共有する。【対：知覚・感受の関わり】 ○学習の見通しをもつ ・本時の目標を達成させるための自己到達目標を設定する。 ・自己到達目標を発表し、クラス全体で共有する。 【主：ワークシート・自己到達目標】 ○表したい音楽のイメージをもつ。 ・「みんなが学校に来たくなるようなチャイム」とは、どのようなものをグループで話し合う。 ・自分が創作するチャイムのイメージを言葉で表現し、ワークシートに記入する。 ○イメージに合った音楽をつくるためには、どのような工夫を行えばよいか考える。 ・旋律づくりに生かせる既習事項を確認する。【主：既習事項】 ・音楽を形づくっている要素の中から、自分が特に工夫したいものを選び、ワークシートに記入する。 ○イメージに合った旋律をつくる。 ・タブレット機器を使用し、4小節の旋律をつくる。 ・再生機能を使い、試行錯誤しながら旋律づくりを進める。		リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりに関心をもち、イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察・ワークシート） 表したいイメージと関わらせながら音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。【創－①】（観察・ワークシート）
2	◆表したい音楽のイメージを一層明確にし、知識や技能を得たり生かしたりしながら創作活動に取り組む。 ○各自の表したいイメージをグループで共有する。 ・各自がつくった旋律をグループ内で聴き合い、旋律を聴いて、どのようなイメージをもったかを伝え合う。 【対：知覚・感受の関わり】 ・各自の表したいイメージと工夫した点を紹介する。 ・よりイメージに合った旋律にするために、どのような工夫をすべきかアドバイスし合う。【対：知覚・感受の関わり】 ・自分の作品に取り入れたいことをワークシートにまとめる。 ○よりイメージに合った旋律にするために、創意工夫を行う。 ・自分の表したい音楽のイメージを再度確認する。 ・音楽を形づくっている要素の中で、何をどのように工夫すればよりイメージに合った旋律になるのかを、友達からの助言や既習事項を参考にして考える。【主：既習事項】 ・試行錯誤しながら旋律づくりを行う。		表したいイメージと関わらせながら音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。【創－①】（観察・ワークシート）
3	◆創作活動に必要な技能を身に付け、イメージに合った簡単な旋律をつくる。 ○イメージに合った簡単な旋律を完成させる。 ・表したい音楽のイメージを言葉で表現するとともに、旋律創作において工夫した点をまとめる。 ○全体で共有し、振り返る。 ・各自が作った旋律を聴き合い、旋律を聴いて感じたことと、そのように感じた理由について意見を共有する。 【対：知覚・感受の関わり】 ・全体で学習を振り返り、価値付けを行う。 【深：見方・考え方】 【対：学びの自覚】		表したいイメージと関わらせながら音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。【創－①】（観察・ワークシート） イメージに合った簡単な旋律をつくるために必要な、課題に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けている【技－①】（観察・作品）

ケ 本時（全3時間中の第1時間目）

○本時の目標

表したい音楽のイメージをもち、それに合った旋律をつくる学習に主体的に取り組む。

○本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 <u>指導の工夫</u>	評価規準（評価方法）
導入 （5分）	○音楽のもたらすイメージについて考える。 ・チャイムの例や、昨年度の1年生の作品（音色、リズム、速度を工夫したもの）を聴き、感じたことを全体で共有する。 ・例を聴いて感じたことと、音楽を形づくっている要素との関わりについて全体で共有する。 ○学習の見通しをもつ。 ・題材の目標と学習の流れ、本時の目標を知る。 ・題材の自己到達目標をワークシートに記入する。	・身近なチャイムという音・音楽から、課題意識をもたせる。 <u>深：見方・考え方</u> ・知覚・感受の関わりを生徒に意識させる。 <u>対：知覚・感受の関わり</u> ・題材の目標と学習の流れを明示する。 ・題材の自己到達目標を考えさせる <u>主：ワークシート・自己到達目標</u>	リズム、速度、旋律、強弱、構成（反復、変化）と、曲想との関わりに関心をもち、イメージに合った簡単な旋律をつくる学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 【関－①】（観察・ワークシート）
展開 （40分）	○表したい音楽のイメージをもつ。 ・「みんなが学校に来たくなるようなチャイム」とは、どのようなものかをグループで話し合う。 ・自分が創作するチャイムのイメージを言葉で表現し、ワークシートに記入する。 ○イメージに合った音楽をつくるための工夫について考える。 ・旋律づくりに生かせる既習事項を確認する。 ○イメージに合った旋律をつくる。 ・タブレット機器を一人1台使用し、4小節の旋律をつくる。 ・音色、リズム、速度、旋律、強弱を試しながら旋律づくりを進める。 ・試した音楽を形づくっている要素の中から、自分が特に工夫したいものを選び、ワークシートに記入する。	・班での話し合いが円滑に行えるよう、机間指導を行いながら助言する。 ・言葉で表現することが難しい生徒には、考え方のヒントを提示する。 ・主発問：「イメージに合った音楽をつくるためには、どのような工夫を行えばよいだろう。」 ・鑑賞の既習事項を想起させ、音楽を形づくっている要素を生徒から引き出す。 <u>主：既習事項</u> ・アプリケーションの使い方を全体で確認する。 ・いろいろな音色、リズム、速度、旋律、強弱を試し、再生機能を使って、変化するとどう感じるか確認しながら旋律づくりを進めるよう助言する。	表したいイメージと関わらせながら、音楽を形づくっている要素について理解し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもって創作表現を創意工夫している。【創－①】（観察・ワークシート） 《評価のポイント》 A：イメージに合った旋律にするためには何を工夫すればいいのか試行錯誤しながら旋律創作に取り組んでいる。 B：自らすすんで旋律創作に取り組んでいる。 《Cと判断される生徒への手だて》 まずは基となるチャイムの旋律を加工してみるよう働き掛ける。
まとめ （5分）	○本時の振り返りを行う。 ・題材の自己到達目標に照らし、本時の達成度をワークシートに記入する。 ・本時の達成度をグループごとに共有する。	・各自の到達目標を再度確認するよう促し、その達成度から次時の見通しをもたせる。 ・本時の学びを自覚する。 <u>対：学びの自覚</u>	

【資料】

○第1時間目（本時）に取り組むワークシート

- ・生徒が考えやすいよう、題材の自己到達目標について、「わたしが作曲するのは○○なチャイム」、「そのために○○を○○工夫します」と話型を定めて提示した。

♪自分のイメージに合ったチャイムをつくろう♪

1年__組__番 氏名()

◎Step 1 どのようなチャイムを作るか決めましょう。

★みんなが学校に来たくなるようなチャイムはどんなチャイムですか。

工夫できる要素

私が作曲するのは、
 なチャイムです。
 そのために
 を 工夫します。

◎Step 2 作ってみよう。

★音を出しながら試して、イメージに合うか聴いて確認しましょう。

何を何で試したか	感じたこと	イメージに合っているか	○/△/×

※表が足りない時は、プリントの裏に続きを書いてください。

◎Step 3 みんなのチャイムを聴いてみよう。

★班のみんなが作ったチャイムを聴いて、「気が付いたこと」や「感じたこと」、「自分の作品に取り入れたいこと」を記入しましょう。

○作った人の名前	○作った人のイメージ	○気が付いたこと、感じたこと、その理由	○自分の作品に取り入れたいこと
(例)	走っていきたくなるチャイム	だんだん速く、大きくなるので、焦る	速さと強弱の変化を取り入れたい

◎Step 4 他の人のチャイムを聴いて考えたことを生かして、チャイムをもっとよくできないか、試してみよう。

★音を出しながら試して、イメージに合うか聴いて確認しましょう。

何を何で試したか	感じたこと	イメージに合っているか	○/△/×

◎Step 5 チャイムを完成させよう。

★音を出しながら試して、イメージに合うか聴いて確認しましょう。

チャイムのテーマ

工夫した点

◎Step 6 他の人のチャイムを聴こう。

★「発表鑑賞プリント」にコメントを書きながら、みんなのチャイムを聴きましょう。

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫】

- ・これまで、生活と関連させた題材を設定した際は、主に生徒の意欲を喚起することを意識してきた。しかし、音楽的な見方・考え方を働かせ、生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けて考える場面を設定することで、私たちの周りには音楽があふれており、生活に欠かせないものであるという意識を生徒にもたせることができた。このことから、音楽的な見方・考え方を働かせる学習を積み重ねることで、音楽の学びをより深めることができると実感した。

【主体的な学びの実現のための指導の工夫】

- ・学習の流れを視覚的に把握できるワークシートを活用することにより、生徒が見通しや目的意識をもって学習を進めることができた。
- ・学習を進める中で、生徒の表したい音楽のイメージが変化していったため、途中で自己到達目標の修正の機会を設定すると、より有効に働くことが明らかになった。

【音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定】

- ・知覚と感受を一体のものとして捉え、それを支えとして学習を進める意識を生徒間で共有することにより、一人一人の生徒が題材の目標を常に意識しながら活動することができた。
- ・学びを自覚する場面を設定することで、様々な学びを共有し、考えを深めることができた。

(2) 実践事例 2

ア 題材名 歌詞の内容と曲想との関わりを生かして合唱表現を工夫しよう（第3学年）

イ 題材の目標

- ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱と曲想との関わりや、歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりに関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図を持ち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する。
- ・歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、身体の使い方）を身に付けて歌う。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○【知識】音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱と曲想との関わりや、歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりについて理解する力 ○【技能】歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能	○音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて思いや意図をもって曲にふさわしい音楽表現を創意工夫する力	○曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度

エ 学習指導要領との関連

中学校学習指導要領（平成20年3月）	中学校学習指導要領（平成29年3月）
【A表現】(1) ア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。 イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。 ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。	【A表現】(1) ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。 イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。 (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

	(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
〔本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素〕 音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱	

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱と曲想との関わりや、歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりに関心をもっている。 ②曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	①音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受している。 ②どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。	①歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。

カ 指導観

本題材では、混声三部合唱曲「友～旅立ちの時～」を教材として、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱と曲想との関わりや、歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習を行う。音楽を形づくる要素や歌詞の内容と曲想との関わりについて主体的・協働的に考え、考えたことを生かして試行錯誤しながら演奏をつくりあげる喜びや楽しさを生徒に味わわせたいと考え、本題材を設定した。本研究の仮説を基に、生徒が音楽的な見方・考え方を働かせながら見通しをもって学び、振り返りを行って自己の変容を自覚することによって「深い学び」を実現させたい。

生徒は、合唱では、自分たちが大切に歌いたい場面を気持ちを込めて歌う活動や、リズムや強弱を聴き手に伝えるためにはどのような工夫が必要かなどを考え、思いや意図をもって表現を創意工夫して歌う活動を積み重ねてきた。本題材では、中学校3年間の学びの集大成として、既習事項を生かしたり、歌詞の内容と曲想との関わりを考えたりしながら、表現を創意工夫する学習を一層充実させ、生徒の音楽を愛好する心情や、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度の育成を図る。

キ 本題材で期待される生徒の「主体的な学びの姿」・「対話的な学びの姿」・「深い学びの姿」

「主体的な学びの姿」	「対話的な学びの姿」	「深い学びの姿」
○音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱と曲想との関わりや、歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりに関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に見通しをもって取り組むとともに、自己の学びを振り返り、学びの価値を自覚している姿	○教員との対話や生徒同士の対話を通して、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように歌うかについて自分の思いや意図を広げたり深めたりして、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している姿	○主体的・協働的に学びながら、知覚・感受したことを基に思いや意図をもって音楽表現を創意工夫し、音楽と自己のイメージや感情、生活などに関連付ける姿

ク 題材の指導計画（全6時間扱い）

次	時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
1		◆音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱）の働きを感じ、楽曲全体の雰囲気をつかむ。		
	1	◆「友～旅立ちの時～」の全体の雰囲気をつかむ。 ○楽曲全体の雰囲気をつかむ。 ・範唱を聴く。 ○学習の見通しをもつ。 ・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱）の働きに着目し、曲のどの部分でどの要素を生かして表現するかをグループで考える。 対：知覚・感受の関わり ・どのような合唱表現をしたいか話し合い、自己到達目標をワークシートに記入する。 主：ワークシート・自己到達目標 ・到達目標をパート内で交流する。		
	2・3	◆「友～旅立ちの時～」の旋律の特徴と音色との関わりを感じながら歌う。 ○旋律の特徴を感じる。 ・音程やリズムに気を付けてパートに分かれて歌う。 ・旋律の特徴を捉え、どのような音色（声色）で歌うと曲にふさわしい音楽表現ができるか、既習事項を生かして考えながら歌う。 主：既習事項		

2	◆「友～旅立ちの時～」の歌詞の内容と、音色の変化、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱との関わりを考え、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫し、思いや意図をもって歌い、合唱の豊かな響きを味わう。		
4 (本時)	◆「友～旅立ちの時～」の歌詞の内容と強弱や音色の変化との関わりを考え、表現を創意工夫する。 ○歌詞の内容と強弱、音色の変化との関わりを考える。 ・歌詞が表す情景や心情、曲想を生かすための工夫は何があるのかを考える。 ・音色や強弱の変化によって言葉のイメージや感情が変わることに気付く。深：見方・考え方 ・歌詞が表す情景や心情、曲想からどのように歌うのか思いや意図をもち、そのための工夫をグループで考え、試行錯誤しながら歌う。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－②】(観察・ワークシート) どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。【創－②】(観察・ワークシート)	
5	◆「友～旅立ちの時～」の歌詞の内容と速度との関わりを考え、表現を創意工夫する。 ○楽曲全体をどのように歌うのか思いや意図をもって表現を工夫する。 ・歌詞の内容と速度との関わりを考え、音楽表現を工夫して演奏する。 ・一番大切にしたい部分をグループで探し、その部分の歌詞を生かして歌うにはどのような速度で演奏したらいいか、グループで試しながら歌う。対：知覚・感受の関わり ・各グループが提案した速度で全曲を歌ってみて、どのようにイメージが変わるか確認する。	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－②】(観察・ワークシート) どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を創意工夫している。【創－②】(観察・ワークシート)	
6	◆「友～旅立ちの時～」の歌詞の内容とテクスチャとの関わりを考え、表現を創意工夫し、合唱の豊かな響きを味わう。 ○歌詞が表す情景や心情、曲想を生かして曲にふさわしい表現を工夫し、合唱の豊かな響きを味わう。 ・前時までを振り返り、音色、リズム、速度、旋律、強弱を生かして演奏する。主：既習事項 ・合唱の豊かな響きを表現するために、テクスチャを工夫できるよう、「合唱は、メロディーだけが聴こえればよいのだろうか」と揺さぶる。 ・ハミングが用いられている部分に焦点化し、イメージにふさわしい旋律の重なりについて考え、テクスチャを工夫する。深：見方・考え方 ○題材の自己到達目標に照らして、自己評価を行い、全体で発表して共有する。 ・工夫を生かして合唱して成果を確認し、自己評価を行って共有する。対：学びの自覚	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－②】(観察・ワークシート) 歌詞が表す情景や心情と曲想との関わりを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌っている。【技－①】(観察、演奏(歌唱))	

ケ 本時（全 6 時間中の第 4 時間目）

○本時の目標

「友～旅立ちの時～」の歌詞の内容と強弱や音色の変化との関わりを考え、表現を創意工夫する。

○本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 <u>指導の工夫</u>	評価規準（評価方法）
導入 （15分）	○本時の学習の見通しをもつ。 ・前時までの学習を確認する。 ・「友～旅立ちの時～」の冒頭の「とも」の歌い方について考える。 ・様々な状況をイメージし、何を変えて歌ったのかを考える。 ・音色や強弱の変化によって言葉のイメージや感情が変わることに気付く。 ・本時のねらいを知る。 「とも」の部分の歌い方を工夫して、思いを伝える合唱にしよう。 ・本時の自己到達目標をワークシートに記入する。	・全体で歌って確認する。 ・強弱と音色の変化を工夫しやすい様々な状況の場면을提示する。 例 1：200m離れた友達を呼ぶ。 例 2：風邪で高熱を出しているときに呼び掛ける。 例 3：授業中、隣の席の友達に消しゴムを借りる。 ・音楽を形づくる要素に着目させる。 <u>対：知覚と感受の関わり</u> ・強弱、音色の工夫についての言葉を生徒から引き出す。言葉が引き出せない場合、普通に歌った場合との対比をさせて考えさせる。 <u>主：既習事項</u> ・主発問：「歌詞を引き立たせるために、何をどう工夫すればよいのだろう。」 ・「友」の 26～34 小節の部分の歌詞「とも」の部分の歌い方を考えていくことを伝える。 ・適宜、題材の到達目標も見直すよう声を掛ける。<u>主：自己到達目標</u>	曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 【関－②】（観察）
展開 （20分）	○歌詞が表す情景や心情、曲想からどのように歌うのか思いや意図をもって歌う。 ・「友～旅立ちの時～」の「とも」の歌詞の部分をもとにどのように歌うのかをグループで考え、声を出して試しながら曲にふさわしい表現を考える。 ・自己到達目標を再確認する。	・歌詞の内容と「とも」の音楽的な特徴との関係を考え、イメージに合った表現を探るよう助言する。 <u>深：見方・考え方</u> ・自己到達目標に向けた活動ができているか、適宜確認する。 <u>主：自己到達目標</u>	どのように歌うかについて思いや意図をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫している。 【創－②】（観察・ワークシート） 《評価のポイント》 A：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように知覚・感受の関わりについて考えながら何度も強弱、音色を工夫している。 B：歌詞が表す情景や心情、曲想からイメージに合うように何度も強弱、音色を工夫している。 《Cと判断される生徒への手だて》 強弱・音色の具体的な工夫を提示して、活動できるように働き掛ける。

まとめ (15分)	○本時の振り返りを行う。 ・グループごとに発表する。 ・他グループの工夫について考える。 ・他グループの工夫を全員で歌ってみる。 ・どの工夫をクラス合唱に取り入れたいかを考えてワークシートに記入する。 ・本時の目標の達成度を考え、ワークシートに記入し、発表する。また、必要があれば題材の自己到達目標を見直す。	・各グループの工夫点は伏せておき、聴いていた他のグループの生徒から意見を引き出す。 ・発表したグループから工夫点を発表させる。 ・拡大楽譜を用意して、それぞれのグループの工夫を視覚的に分かりやすく提示する。 ・目標達成度については、根拠を明確にするよう助言する。 主：学びの自覚	
--------------	---	---	--

【資料】

○第4時間目（本時）に取り組むワークシート

- ・本時の自己到達目標を考え、自己評価を行う。その上で、必要があれば題材の自己到達目標を見直すよう助言した。

歌詞の内容や曲想を生かして表現を工夫しよう。		3年____組____番 氏名（ ）
①題材の目標と、自己到達目標を確認しよう。 ☆題材の目標「 _____ 」 ☆自己到達目標	④他のグループの工夫を聴いてみよう。 第1グループ良かったと思う工夫 第2グループ良かったと思う工夫 自分たちの合唱に取り入れてみたいのはどの工夫だろうか。	
②本時の目標を決めよう。 この曲が、_____という感じになるように 「とも」の歌詞の部分の _____ を工夫して歌う。	⑤自己評価 本時の目標の達成状況を書き、必要があれば題材の自己到達目標を修正しよう。	
③「とも」の歌詞の部分をもとに歌うか、グループで歌いながら考えよう。		
(楽譜)	この部分の「とも」は _____ という感じがするので、 _____ を _____ 歌う。	
(楽譜)	この部分の「とも」は _____ という感じがするので、 _____ を _____ 歌う。	

コ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫】

- ・音楽的な見方・考え方を働かせ、音や音楽を自己のイメージや感情などと関連付けて考える場面を設定することで、これまで周囲の生徒に引っ張られて合唱していた生徒も含め、一人一人が自己のイメージと関わらせて試行錯誤しながら歌うことができた。それにより、生徒が音楽の楽しみを一層感じ、改めて合唱のよさを実感できた。

【主体的な学びの実現のための指導の工夫】

- ・題材の目標に応じた自己到達目標を設定することで、生徒は学習の見通しをもつことがで

きた。それにより、グループでの活動も、生徒一人一人が目的意識をもって参加することができ、効果的に学習を進めることができた。

【音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定】

- ・ミニホワイトボードを使って、歌詞の内容と音楽を形づくっている要素との関わりをグループで考えることで、一人一人の思いや意図を生かして、表現の工夫をグループで考え、試行錯誤しながら歌うことができた。
- ・グループで協働して学習を行う際に活用するワークシートについて、自己の意見とグループの意見とをより効果的に整理できるものを作成し、学習の成果や変容を一層明確にする必要があった。

(3) 実践事例 3

ア 題材名 歌舞伎に親しみ、よさを味わおう（第2学年）

イ 題材の目標

- ・長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組む。
- ・長唄の音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを理解したり、長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて歌舞伎音楽を鑑賞するとともに、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割、価値について自分なりに考え、よさを味わって歌舞伎を鑑賞する。

ウ 本題材で育成を目指す資質・能力

知識	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
○音色、旋律、テクスチュアと、曲想との関わりについて理解する力 ○長唄の特徴と物語や演出、江戸時代の生活や社会との関わりについて理解する力	○江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割、価値について自分なりに考え、よさを味わって歌舞伎を鑑賞する力	○歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活の中の音や音楽、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度

エ 学習指導要領との関連

中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）	中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）
【B鑑賞】(1) ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴き、根拠をもって批評するなどして、音楽のよさや美しさを	【B鑑賞】(1) ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

味わうこと。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。	(イ) 生活や社会における音楽の意味や役割 (ウ) 音楽表現の共通性や固有性 イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。 (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性
[本題材において焦点化して扱う音楽を形づくっている要素] 音色、旋律、テクスチャ	

オ 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①長唄を含む歌舞伎の特徴に関心を持ち、音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。	①長唄の音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考えて鑑賞している。 ②長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて歌舞伎音楽を鑑賞し、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割、価値について自分なりに考え、よさを味わって歌舞伎を鑑賞している。

カ 指導観

歌舞伎は音楽表現や舞台表現に固有の特徴を有している我が国の伝統芸能である。江戸時代の大衆演劇であったため、当時の生活習慣や庶民性が色濃く反映されている。そのため、生徒にとって歌舞伎は、音楽と文化や歴史との関わりを理解しやすい教材である。本題材では、長唄、言葉の発音や抑揚、楽器に焦点を当て、歌舞伎の音楽の特徴を見いだす活動を行う。その中で、演出等と関連付けながら江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割について考え、よさを味わう活動を展開する。

第2学年では、我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の音楽を通して、発声や音色の特徴、拍節的・非拍節的なリズムの特徴、それぞれの音楽と社会や文化との関わりについて学習してきた。本題材では、それらの既習事項を生かしながら歌舞伎の固有性や他の音楽との共通性を見だし、よさを味わう。また、歌舞伎が、総合芸術として演劇的要素や美術的要素など関わって成立していることに気付き、そこから音楽をより深く聴き味わうことができるよう学習を行う。生徒が様々な音楽に触れ、その多様性を感じ取り、音楽に対する価値観や視野を広げることを期待する。

キ 本題材で期待される生徒の「主体的な学びの姿」・「対話的な学びの姿」・「深い学びの姿」

「主体的な学びの姿」	「対話的な学びの姿」	「深い学びの姿」
○長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的に取り組むとともに、自己の学びを振り返り、学びの価値を自覚している姿	○教員との対話や生徒同士の対話を通して、長唄の音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりや、歌舞伎の特徴、歌舞伎の意味や価値についての自分の考えを広げたり深めたりして鑑賞している姿	○主体的・協働的に学びながら、知覚・感受したことを基に鑑賞し、音や音楽と歌舞伎の物語や歴史的背景、伝統等を関連付け、歌舞伎のよさを味わって鑑賞する姿

ク 題材の指導計画（全2時間扱い）

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動	指導の工夫	評価規準（評価方法）
1	◆長唄の唄い方の特徴を捉える。 ○歌舞伎に関心をもつ。 ・現代も使われる歌舞伎用語を知り、自分の生活と歌舞伎の関わりを感じる。 ・歌舞伎を鑑賞し特徴を捉える。 ○音楽の特徴を捉え、学習の見通しをもつ。 ・使用されている楽器や歌声の特徴を捉え、共有する。 ・ワークシートを用い、本時の目標を達成させるための自己到達目標を設定する。【主：ワークシート・自己到達目標】 ○長唄の唄い方の特徴を捉える。 ・歌詞を音読し、言葉のまとまりを感じるとともに、歌詞の意味を理解する。 ・CDを聴き、声や歌い方を真似しながら、長唄の唄い方の特徴を捉える。 ・音色、唄い尻、産字について確認する。【対：知覚・感受の関わり】 ○学習を振り返る。 ・全員で唄うことで本時の学習を振り返り、長唄の特徴を確認する。 ・自己評価を行い、学びを共有する。【対：学びの自覚】		長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察・ワークシート） 長唄の音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考えて鑑賞している。【鑑－①】（観察・ワークシート）
2	◆歴史的な背景や演出、音楽と物語との関わりについて考え、歌舞伎のよさを味わって鑑賞する。 ○歌舞伎の歴史等を学び、価値を探る。 ・歌舞伎の歴史的背景を知る。【主：既習事項】 ・歌舞伎の演出（舞台装置、演技）について知る。 ○学習の見通しをもつ。【主：ワークシート・自己到達目標】 ・前時の学習の振り返り、本時の目標を確認する。 ○音楽と物語との関わりを考える。 ・「勧進帳」のあらすじを知る。		長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関－①】（観察・ワークシート） 長唄の音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチャ）

・山伏問答、判官御手、幕外の幕切について、音楽の効果、音楽と登場人物の心情との関わりを考えながら鑑賞する。 ○歌舞伎のよさについて考え、学習を振り返り、学びを価値付ける。 ・江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割を自分なりに考え、よさを味わいながら再度鑑賞する。【深：見方・考え方】 ・自己評価を行い、学びを共有する。【対：学びの自覚】	を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考えて鑑賞している。【鑑－①】（観察・ワークシート） 長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて歌舞伎音楽を鑑賞し、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割、価値について自分なりに考え、よさを味わって歌舞伎を鑑賞している。【鑑－②】（観察・ワークシート）
---	--

ケ 全2時間中の第1時間目

○本時の目標

長唄の唄い方の特徴を捉える。

○本時の展開

	○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点 【指導の工夫】	評価規準（評価方法）
導入 （10分）	○歌舞伎に関心をもつ。 ・歌舞伎に由来する言葉から、自分の生活と歌舞伎の関わりを感じる。 ・歌舞伎は江戸時代に流行した芸能であること、当時の言葉を現代でも使用していることを知り、歌舞伎が庶民にとって身近な存在だったことに気付く。 ・「勸進帳」の一部を鑑賞し、歌舞伎の特徴を捉える。 【予想される生徒の気付き】 舞台：花道、舞台上に長唄、背景の松 役者：隈取、衣装、男性が多い、台詞が聴き取れない（昔の言葉）、喋り方が特殊 音楽：三味線、役者が歌わない	・「ノリ」、「十八番」、「捨て台詞」等の歌舞伎に由来する言葉から、生徒の学習意欲を喚起する。 ・社会科における既習事項との関連を図る。 【主：既習事項】	
展開 （30分）	○音楽の特徴を捉える。 ・使用されている楽器や歌声の特徴を捉え、共有する。 ・「勸進帳」が、唄、三味線、囃子（四拍子）で演奏されていることを知る。 ○本時の目標を確認する。 ・「長唄の唄い方の特徴を捉えよう」 ・本時の目標を達成させるための自己到達目標を設定する。 ・自己到達目標を発表し、クラス全体で共有する。	・歌声については、既習の合唱曲やイタリア歌曲と比べてどう感じるか問い掛ける。 【主：既習事項】 ・長唄の特徴を捉えるために、聴くポイントを考えさせる。 【主：ワークシート・自己到達目標】	長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、歌舞伎の特徴を

展開 (30分)	○長唄の唄い方の特徴を捉える。 ・「勸進帳」の「これやこの～山かくす」の部分聴く。 ・歌詞を確認した後、全員で歌詞の音読をし、言葉のまとまりを感じる。 ・歌詞の意味を理解する。 ・長唄のCDをよく聴き、声や歌い方を真似しながら、長唄の唄い方の特徴を捉え、グループで話し合っ長唄にふさわしい声の出し方を考える。 ・特徴を全体で共有する。 ・音色、唄い尻、産字について確認する。	・言葉を丁寧に捉えさせ、言葉のまとまりを感じさせる。 ・現代語訳を確認する。 ・ワークシートに、節回しの特徴を書き込ませる。 ・知覚と感受の関わりについて考えさせる。 <u>深：知覚・感受の関わり</u> ・拍節的な歌唱であるかを確認し、第1学年時の民謡の学習と関連付ける。 <u>主：既習事項</u>	捉える学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関一①】(観察・ワークシート) 長唄の音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチュア)を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考えて鑑賞している。【鑑一①】(観察・ワークシート) 《評価のポイント》 A:長唄にふさわしい声の出し方、歌い終わりの旋律の動き、母音の動きなどに注目し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 B:長唄にふさわしい声の出し方、歌い終わりの旋律の動き、母音の動きなどに注目している。 《Cと判断される生徒への手だて》 声をよく聴き、同じような声を出すために口の形をどのようにすればよいか考えさせる。また、歌い終わりの旋律の動きや伸ばしている母音の動きに焦点化して聴くよう助言する。
まとめ (10分)	○学習を振り返る。 ・改めて長唄のCDを聴き、本時の学習を振り返り、長唄の特徴を確認する。 ・長唄を唄ってみて感じたこと、気付いたことをワークシートに記入する。 ・自己評価を行う。 ・本時で学習したことを発表し、学びを共有する。	・音色、唄い尻、産字を意識させる。 ・長唄の特徴を捉えることができたかを確認させる。 ・各自が学んだことを自覚できるよう、共感的に価値付ける。 <u>対：学びの自覚</u>	

コ 全2時間中の第2時間目

○本時の目標

歴史的な背景や演出、音楽と物語との関わりについて考え、歌舞伎のよさを味わって鑑賞する。

○本時の展開

	○学習内容 ・ 学習活動	・ 指導上の留意点 指導の工夫	評価規準（評価方法）
導入 (5分)	○学習の見通しをもつ。 ・ 前時の学習を振り返る。 ・ 本時の目標を確認する。 ・ 「歌舞伎のよさを考えよう」 視点①長唄などの音楽と物語との関わり 視点②歴史的な背景 視点③舞台の特徴や工夫 ・ 自己到達目標を設定する。	・ 歌舞伎の音楽的要素が、演目全体ではどのように生かされているかを感じ取るよう促す。 ・ 歴史的な背景や舞台装置の工夫等から、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割を考えることを伝える。	
展開 (35分)	○歌舞伎の歴史等を学び、価値を探る。 ・ 歌舞伎の歴史的背景を知る。 主：既習事項 ・ 歌舞伎の舞台装置（廻り舞台、セリ、花道など）を知る。 ・ 歌舞伎の演技（見得、六方）を知る。 ○学習の見通しをもつ。 主：ワークシート・自己到達目標 ・ 前時の学習の振り返り、本時の目標を確認する。 ○音楽と物語との関わりを考える。 ・ 「勸進帳」のあらすじを知る。 ・ 山伏問答、判官御手、幕外の幕切について、音楽の効果、音楽と登場人物の心情との関わりを考えながら鑑賞する。 山伏問答：富樫と弁慶の問答のテンポのよさ、徐々に緊迫していく様子を聴き取る。 判官御手：曲調の優雅でしっとりとした様子、落ち着いた三味線の音色を聴き取る。 幕外の幕切：弁慶の飛び六方の演技を音楽が強調していることを感じ取る。	・ 社会科における既習事項との関連を図る。 主：既習事項 ・ 身近な話題が台本になることや有名な役者のこと、スーパー歌舞伎の話題等と関連付ける。 深：見方・考え方 ・ 音楽の特徴や曲想などを感じ取り、ワークシートに記入させる。クラス全体で共有しながら進めていく。 対：知覚・感受の関わり	長唄を含む歌舞伎の特徴に関心をもち、音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、歌舞伎の特徴を捉える学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。【関一①】（観察・ワークシート） 長唄の音楽を形づくっている要素（音色、旋律、テクスチュア）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを考えて鑑賞している。 【鑑一①】（観察・ワークシート） 《評価のポイント》 A：音色、旋律の特徴やテクスチュアに注目して特徴を捉え、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。 B：音色、旋律の特徴やテクスチュアに注目して特徴を捉えている。 《Cと判断される生徒への手だて》 速度の変化に焦点化して聴くよう助言したり、聴こえる楽器が何か確認して使用されている楽器を明確化させたり、音楽が鳴ることによって六方にどのような効果があるか考えるよう促したりする。

まとめ (10分)	○歌舞伎のよさについて考え、学習を振り返り、学びを価値付ける。 ・江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割を自分なりに考え、よさを味わいながら再度鑑賞する。 ・自己評価を行ってワークシートに記入し、クラスで共有する。	・既習事項である日本の民謡や、江戸時代の娯楽である相撲などと関連付けさせることができる発問を行う。 <u>主：既習事項</u> <u>深：見方・考え方</u> ・学びを共有する。 <u>対：学びの自覚</u>	長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて歌舞伎音楽を鑑賞し、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や役割、価値について自分なりに考え、よさを味わって歌舞伎を鑑賞している。【鑑②】(観察・ワークシート)
--------------	--	---	---

【資料】

○ 第1時間目に取り組むワークシート

- ・音楽を形づくっている要素のうち、何に焦点化して聴くと、長唄の特徴を捉えることができるか予想することで、自己到達目標を設定させた。なお、本題材では、題材の構成上、題材の自己到達目標を設定するのではなく、1時間ごとに自己到達目標を設定した。

歌舞伎に親しみ、よさを味わおう。

2年()組()番 氏名()

★学習のポイント★

(1) 歌舞伎の音楽の特徴を捉える。

(2) 音楽・当時の文化や生活など様々な情報を基に、歌舞伎の価値について考えてよさを味わう。

① 特徴を捉えよう。

歌舞伎について

★歌舞伎の特徴だと思うものは？

歌舞伎の音楽について

★楽器の特徴(音色や種類など)

★声の特徴(言葉、音色の特徴など)

③ 歌詞を聞き取ろう。

こ

ゆ

し

お

や

聴き取りづらさの理由が「唄い方」の特徴につながるかもしれない。

② 目標を定めよう。

今日の目標：「長唄の唄い方の特徴を捉えよう。」

長唄は ①()、②()、③() で構成される。

※ ③() = () () () () ()

何に注目して、長唄の唄い方の特徴をとらえるか決めよう。

() に注目する。

授業の最後に自己評価をしよう。

① 自分が設定した注目ポイントに注目して、長唄の唄い方の特徴をとらえることができたか。

5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1

(できた) (できなかった)

② 自分が設定した注目ポイントは、特徴をとらえるために役に立ったか。

役に立った ・ 役に立たなかった

④ 学習をふり返り、まとめよう。

(1) 長唄の唄い方の特徴

→

→

→

(2) ②で決めた、自分の目標の達成度を自己評価しよう(左下の枠に記入)。

(3) 長唄を唄ってみて、また、歌舞伎の学習を通して、感じたことや気付いたこと、考えたことを書いて学習をまとめよう。

サ 実践の成果と今後の課題

【音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫】

- ・音楽的な見方・考え方を働かせ、長唄の特徴を物語や演出などと関連付けて歌舞伎音楽を鑑賞するとともに、江戸時代の生活や社会における歌舞伎の意味や価値について自分なりに考える場面を設定した。それにより、生徒は、音楽の多様性について理解するとともに、歌舞伎の歴史的背景、歌舞伎が現在でも親しまれている理由や価値等について理解しながら、歌舞伎のよさや美しさを味わって聴くことができた。

【主体的な学びの実現のための指導の工夫】

- ・鑑賞の学習で、どのように生徒が自己到達目標を設定することができるか検討し、本実践では、音楽を形づくっている要素のうち、何に焦点化して聴くと、その特徴を捉えることができるか予想し、振り返りでその予想が鑑賞に資するものであったか考えさせた。それにより、見通しをもつだけでなく、感性を働かせて音楽を捉えようとする姿勢を育むことができた。

【音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定】

- ・生徒同士で知覚したことと感受したこととの関わりについて考える場面では、音色について「こもった声色が特徴的」と捉えた生徒が多い中、「唄っている人の表情が変わらない」、「ホーミーみたいに、口の中で響かせている感じ」、との意見が出て、全体で共有するよう教員が促した結果、「真似すると同じようなこもった声になる」との発見があった。対話することで生まれた発見により、音楽の多様性を感じ取り、音楽に対する価値観を広げる場面の一つとなった。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫

本研究では、生徒が知覚・感受したことを、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考える場面を設定し、生徒が音楽的な見方・考え方を主体的に働かせることができるよう、学習指導計画を工夫した。それにより、音楽の学習が、音楽そのものにとどまるものではなく、自分の生活や社会と関連する学習であると実感した旨の感想を書いた生徒が、これまでの実践における感想に比べて多かった。特に創作や合唱の実践では、「身近な音にも様々な意味があることが分かった」、「身の回りの音や音楽を意識して生活したい」、「これまでは、主に歌詞に気を付けていたが、これからは、歌詞と音楽との結びつきから生まれるイメージにも気を付けて、歌ったり、聴いたりしたい」等の意見が多く見られた。

以上のような成果から、本研究では、音楽的な見方・考え方を働かせる場面を設定し、既習事項との関連を図る声掛けを行ったり、生徒の音楽に対する価値意識を広げる発問を行ったりすることで、生徒が、音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けて考え、音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成につなげることができた。

(2) 主体的な学びの実現のための指導の工夫

本研究では、主体的な学びを実現するために、見通しを立てるワークシートを活用するとともに、題材の目標を踏まえた自己到達目標の設定と振り返りを実施し、学習活動においては、既習事項を関連付ける手掛かりとなる声掛けや発問の工夫を行った。

それにより、生徒は、この題材で自分が何を学習するのか、明確な目的意識をもって学習に臨むことができた。また、振り返りを行って、題材で学んだことや身に付いたことを自ら確認することにより、学習の意味を明確化するだけでなく、題材での学びや本時の学びを今後の学習に活用する意欲にもつなげることができた。

(3) 音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定

本研究では、知覚・感受の関わりについて対話的・協働的に考える場面を設定するとともに、学んだことについて対話的・協働的に自覚する場面を設定した。

知覚・感受の関わりについて考える場面を設定することで、音楽を捉える視点を全体で共有できた。これまでは、多くの生徒が感受に重点をおいて音楽を捉えようとする一方、習い事や部活動で楽器等を学んでいる生徒は、知覚に重点をおいて音楽を捉えようとする場面が見られた。本研究では、生徒同士で対話しながら音楽を捉えることで、知覚にも感受にも偏ることなく、両者の関わりを共通の基盤に学習を進めることができた。

学んだことを対話的に自覚する場面の設定については、他者の変容や学習成果を聞くことで、一人では気付くことのできない学びに気付き、共有することができた。また、「みんなで確認することで一体感が生まれた」と話す生徒がいるなど、学習意欲にもつながった。

2 研究の課題

(1) 音楽的な見方・考え方を働かせる場面の設定と指導の工夫

本研究では、特に深い学びの実現を目指して検討を行ったが、実践にあたっては、主体的な学び、対話的な学びと深い学びが一体のものであることを再認識した。そのため、題材のまとまりの中で、音楽的な見方・考え方を働かせて深まりをつくりだす場面をどこに設定するか、見通しをもったり振り返ったりする場面をどこに設定するか、対話的に活動する場面をどこに設定するか等、題材全体の計画が非常に重要であると考えた。題材全体をいかに計画し、より効果的な学びにつなげるのか検討することを、今後の課題としたい。

(2) 主体的な学びの実現のための指導の工夫

実践事例1でも述べたとおり、生徒が表したい音楽のイメージは、学習しながら変化していくものであり、適宜、自己到達目標の修正の機会を設定することが必要であった。そのような修正の機会を題材計画のどこに設定すべきかの検討を、今後の課題としたい。また、鑑賞の授業における自己到達目標の設定についても検討が必要であると考えた。さらに、自己到達目標を生かした生徒の自己評価と、教員による評価との整合性をいかに図るかについても課題が残った。

(3) 音楽的な学びを充実させるための対話的・協働的な学習場面の設定

本研究では、対話的な学習を単なる意見表明や意見交換にしないために、どのような工夫ができるか検討し、音楽的な学びを充実させる視点から、知覚・感受を根拠に対話的・協働的な学習を進めた。しかし、グループによっては対話が深まらない状況もあった。これは、題材の計画が生徒の思考や実態に必ずしも即していなかったことが原因であると考えられる。今後は、ミニホワイトボードの活用やワークシートの工夫とともに、より生徒の思考や実態に即した題材計画について検討していく必要がある。

平成 29 年度 教育研究員名簿

中学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
東久留米市立西中学校	主任教諭	小柳津 智 子
あきる野市立五日市中学校	主任教諭	◎ 畠 山 泰 孝

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指導主事 澁谷 創平

平成 29 年度

教育研究員研究報告書

中学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録

平成 29 年度第 142 号

平成 30 年 3 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 康印刷株式会社